

Topic1

西海岸が変わる！ 近未来の リゾートエリアへ



西海岸開発事業は、昭和49年の伊奈武瀬地区に始まり、浦添市クリンセンターや浦添市リサイクルプラザ、沖縄県中央卸売市場、いなんせ斎苑等の公益施設のほか、西洲地区には沖縄県卸売商業団地が形成されるなど、県経済の拠点として広く利用されています。

当事業については、第一ステージ、第二ステージ、第三ステージと段階的に整備する予定となっています。

平成22年12月に埋立が竣工した第一ステージ地区は、埋立地における上下水道工事などの基盤整備と都市機能用地(約8.55ヘクタール)の企業への売却に向けた作業を進めている状況であり、平成25年9月より公募を開始しています。

当該地区に企業を誘致することにより、雇用約3400人、経済効果約



255億円を見込んでいます。これは、本市の自立的発展、更には県経済の発展に大きく寄与するものです。

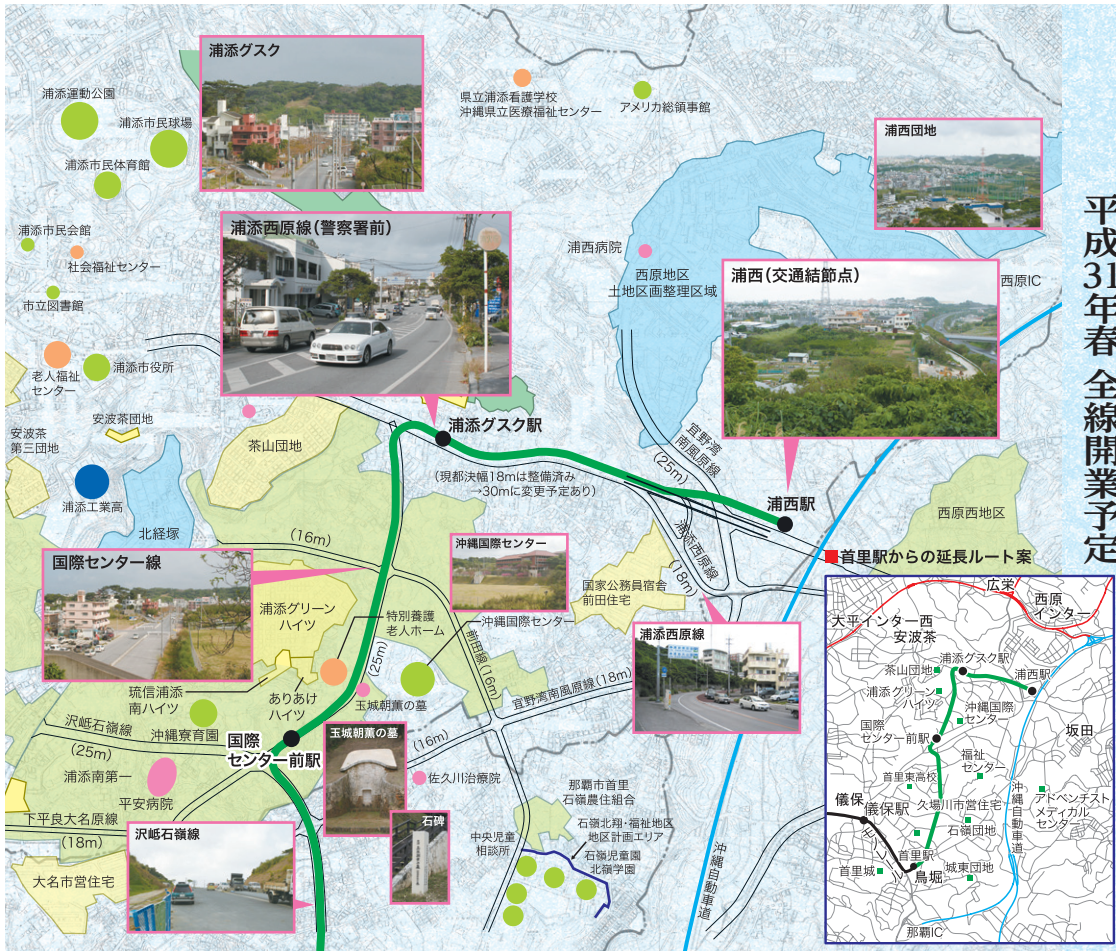
また、臨港道路浦添線および沖縄西海岸道路などの整備が平成28年度に完成し、平成29年4月に供用開始予定となっています。その開通に伴い、国道58号などの慢性的な渋滞緩和が図られます。

Topic2

てだこの新しい道

沖縄都市モノレール延長

平成31年春全線開業予定



※このパースは予備設計段階の完成イメージを示したものであり、実際とは異なる場合があります。

県内の交通の要所として重要な位置にある浦添市。集中する自動車交通に対してモノレールが開通することで自家用車からモノレールへの転換が図られ、通勤・通学の時間が短縮する他、交通渋滞の緩和が期待できます。また、このことにより交通事故が減少し、モノレール沿線の道路の安

全性向上と渋滞緩和による環境負荷への低減へとつながります。

沖縄都市モノレール延長事業において、本市には経塚駅、前田駅、浦西駅(全て仮称)の3駅が予定されています。経塚駅は浦添南第一土地区画整理地区内に位置し、経塚公園を中心に緑豊かな駅として、前田駅は浦添グスクの麓に位置し、浦添グスクと仲間地区の景観に配慮した駅として、最終駅である浦西駅は、沖縄自動車道との結節やパークアンドライドを活用した交通結節拠点として整備する計画です。

特に、浦西駅周辺については、駅を中心とした活力や賑わいの創出を図るため、最先端のまちづくりに協力頂ける参入事業者を県内・県外から広く公募し駅周辺地域の活性化を図ってまいります。

浦添市では、様々な効果が期待できる沖縄都市モノレールの平成31年春の開業に向けて、市民とともに取り組んで参ります。



3つのステージに分け、段階的に構想を具現化します

- 企業誘致等により、まちに賑いをもたらす
第一ステージ地区構想(都市機能用地・臨港道路・港湾緑地など)
- 都市近郊型海浜リゾートを展開し、華やぎの展望
第二ステージ地区構想(コースタルリゾート地区:交流厚生用地・海洋緑地・人工ビーチ・マリーナ等)
- 港湾事業のさらなる円滑推進を求めて
第三ステージ地区構想(ふ頭・港湾関連用地など)

